

VI その他の事業

1 問合せ対応

富士宮市の歴史や民俗などに関する、市内外からの問合せに対応した。要請に応じ、講座等の説明・案内を行った。

2 小中学校総合学習への対応

市内小中学校の総合学習（富士山学習）の一環として、児童・生徒の訪問・質問に対応した。また、各学校を訪問し講話を行った。

3 講師派遣

（1）富士山まちづくり出前講座

富士山まちづくり出前講座は、市民の自主学習の支援や市政の広報のために設けられたもので、平成 28 年度も文化課職員が講師となり、小学校や公民館において、「ふるさとの歴史を学ぶ」と題して講座を開催した。

その他、市外からの視察等にも対応し、世界遺産構成資産の説明等を行った。

富士宮市埋蔵文化財センター開館2周年・富士山世界遺産登録3周年記念

富士宮の遺跡展

展示解説シート



① 埋蔵文化財センター

所在：長貫 747-1 開所：2014 年 6 月 開館時間： 平日 9:00～17:00(入館 16:30 まで)

旧芝川町保健センターを改修しオープンしました。市内の遺跡から出た土器・石器等の展示や調査、文化財の問合せの対応を行っています。

②^{おしかくぼ}大鹿窪遺跡（国指定史跡）

所在：大鹿窪字東村 調査年：2001・02・08 年 時代：縄文（草創期・早期）

大鹿窪遺跡は、西山本門寺の北西約2km の芝川東岸の微高地に位置する縄文時代草創期～早期の集落遺跡です。調査によって、この時期では国内最多の 14 棟の竪穴住居跡が確認され、土器・石器などが 26,000 点余り出土しています。縄文草創期～早期の段階において、平地上で複数の竪穴住居跡群によって構成される集落をもつ大鹿窪遺跡のような例は全国でも珍しいものです。

③^{せんごいせき}千居遺跡（国指定史跡）

所在：上条字千居 調査年：1970・71・2008 年 時代：旧石器・縄文（中期・後期）

千居遺跡は、大石寺の北側約 1.2km に位置する縄文時代中期後半～終末の集落及び巨大な配石がある遺跡です。調査を通して 20 棟の竪穴住居跡や土壇など、集落の存在を示す遺構と、小規模の環状配石と帯状配石といった配石遺構が検出され、遺構や包含層から大量の土器や石器が出土しています。これらの層位と年代から、遺跡が利用された期間が比較的短期間であり、集落が営まれた期間に富士山の噴火が起こり、そのため集落が放棄され、後に配石遺構がつくられたことが想定されています。

④^{わかみや}若宮遺跡

所在：小泉字古宮 調査年：1978・81 年 時代：縄文（早期）・弥生

若宮遺跡は、国道 139 号の小泉交差点の東の高台に位置する縄文時代早期の集落遺跡です。調査によって竪穴住居跡 28 棟と、炉穴、集石土壇、集石、炉穴などの集落の存在を示す遺構が検出されました。また、縄文時代早期前葉の撚糸文土器、早期中葉の山形押型文・格子目押型文などの土器や、打製石斧や磨石など数多くの石器が出土しており、中でも石鏃やその未成品の占める割合が特に多く、約 2000 点出土しています。

⑤^{たきのうえ}滝ノ上遺跡

所在：杉田字滝ノ上 調査年：1980 年 時代：縄文（中期）

滝ノ上遺跡は、県営畑地帯総合土地改良事業に伴い発掘調査が実施されました。安養寺北側の東西に延びる幹線道路の計画地には、縄文時代中期の配石が西側の高台に 3 基、東側の天間沢側の平坦地に 4 基が発見されました。高台の 3 基は、5 m 内外の範囲に人頭大から拳大の礫がほぼ円形に散在的に集められていました。天間沢側の 3 基は 2 m ほどの墓穴の上に礫が積み、他の 1 基は円形に並べられた礫に四方に石棒が置かれていました。墓地や祭祀の跡と考えられます。

⑥^{たきど}滝戸遺跡

所在：黒田字滝戸 調査年：1976・77・79・82・87・2006 年

時代：縄文（中期・後期）・弥生（後期）・古墳

滝戸遺跡は、市立第三中学校一帯を中心に北側の潤井川まで広がる市内でも有数の大遺跡です。

これまでの校舎の改築や、河川改修に伴う発掘調査では、縄文時代中・後期の竪穴住居跡 4 棟、10 数基の配石が発見されました。さらに、その上層には弥生時代後期の竪穴住居跡 38 棟や方形周溝墓 16 基と古墳 2 基も発見されました。紀元前 4500 年から 1500 年ほど前まで集落と墓地が繰り返して築かれていたことがうかがえます。

⑦^{つき}^わ月の輪遺跡群

所在：星山字月の輪 調査年：1969～72・76・80・81 年 時代：弥生（後期）・古墳

月の輪遺跡群は、月の輪上遺跡・月の輪平遺跡・月の輪下遺跡の総称です。月の輪上遺跡は、黒田小学校を中心とした遺跡で、3 度の発掘調査が実施されました。弥生時代後期の竪穴住居跡 14 棟や溝状遺構・掘立柱建物跡や古墳時代初頭の竪穴住居跡 4 棟が見つかりました。月の輪平遺跡は、月の輪上遺跡の西側に隣接しています。発掘調査では、弥生時代末期～古墳時代初頭期の竪穴住居跡が重複し合って 117 棟見つかりました。住居跡の重複は頻繁な建て替えが行われた結果だと考えられます。竪穴住居跡の「床面の二重構造」は土間に良く似た構造です。

⑧^{まるがいと}丸ヶ谷戸遺跡

所在：大岩字丸ヶ谷戸 調査年：1990・2000 年 時代：古墳（初頭）

丸ヶ谷戸遺跡は、富士宮東高校の北側 800m、弓沢川の東側に位置しています。丸ヶ谷戸遺跡は 3 世紀前半の「ムラ」の跡であり、県内で最も古い段階である古墳時代初頭の前方形周溝墓と竪穴住居跡と一緒に発見されました。特に富士山を正面に据える前方形周溝墓はムラにおけるリーダーの政治力の象徴であると考えられます。この発見はこの地域の古墳時代の始まりを考える上で極めて重要な出来事であると言えます。

⑨^{おおみやじょうあと}大宮城跡

所在：元城町 調査年：1984・95・97・98・2007・2012 年 時代：古墳・古代・中世・近世

大宮城跡は、大宮小学校を中心とした一帯に所在する遺跡です。富士山信仰の大宮司を務めた富士氏の居館で、戦国時代になると今川氏の傘下で武装化し城郭となりました。発掘調査では、幅 6 m、深さ約 3 m の堀や土塁の一部、柵と思われる建築部材や建物跡が見つかり、また、日本各地の土器・陶器や中国産の陶磁器が見つかり、富士氏の繁栄ぶりがうかがえます。

⑩^{せんげんたいしや}浅間大社遺跡

所在：宮町 調査年：1994・95・2002～05・07～11・15年 時代：縄文・古墳・古代・中世・近世

浅間大社遺跡は、浅間大社を中心とした周辺地域を含む遺跡です。富士氏が大宮司を務め、富士山信仰の本拠地となりました。発掘調査では西側で平安時代の掘立柱建物跡や竪穴建物跡が、東側では井戸や溝状遺構が見つっています。また、湧玉池の水質改善事業に伴って、池の中からは大量の土器や陶磁器が採集されており、富士登拝の前に水垢離^{みずごり}を行い身を清めた人々の痕跡が感じられます。

⑪^{ひとあなふじこう}人穴富士講遺跡

所在：人穴 調査年：2001年 時代：近世・近現代

人穴富士講遺跡は、人穴浅間神社境内を中心とする地域が遺跡範囲です。遺跡内には、富士山信仰のための修行が行われたと伝わる溶岩洞穴や、江戸時代に関東を中心として広まった富士講の信者達が建てた碑塔群が233基残っています。発掘調査では、神社の東側で、大日如来を納めた大日堂跡と考えられる礎石立建物跡とそこに連なる参道と考えられる道跡や井戸跡が見つっています。

⑫^{しろやま}城山遺跡

所在：大宮町字若の宮 調査年：2014年 時代：弥生（後期）・古墳（初頭）

城山遺跡は、城山公園再整備事業に伴い発掘調査が実施され、公園の西側に方形周溝墓が3基発見されました。このうち、大形の1基は方台部の長さが9.2mほどで、外側に幅2m、深さ0.8mほどの周溝が巡っていました。方台部や墓壇はすでに削り取られていましたが、溝には穴が開けられた壺や甕が置かれていました。これは、死者に対する葬送儀礼のひとつと考えられます。城山遺跡で発見された方形周溝墓は、市内で4例目（他は滝戸遺跡・南部谷戸遺跡・丸ヶ谷戸遺跡）となります。方形周溝墓が作られた弥生時代後期に市内の遺跡は少なく、星山丘陵の月の輪遺跡群や滝戸遺跡など潤井川右岸の遺跡が注目されていました。今回の方形周溝墓の発見は、富士川沿岸から星山丘陵間に存在した弥生文化の移入ルートが、富士山側の台地にも及んだ軌跡がうかがえます。そして、この後に築かれる大岩の丸ヶ谷戸遺跡の前方後方形周溝墓の成立過程を知る貴重な資料です。

富士宮市埋蔵文化財センター開館2周年・富士山世界遺産登録3周年記念

富士宮の遺跡展

2016年6月20日（月）～26日（日）

富士宮市教育委員会 教育部 文化課 埋蔵文化財センター

TEL:0544-65-5151 FAX:0544-65-2933

Mail: : maibun_center@city.fujinomiya.lg.jp